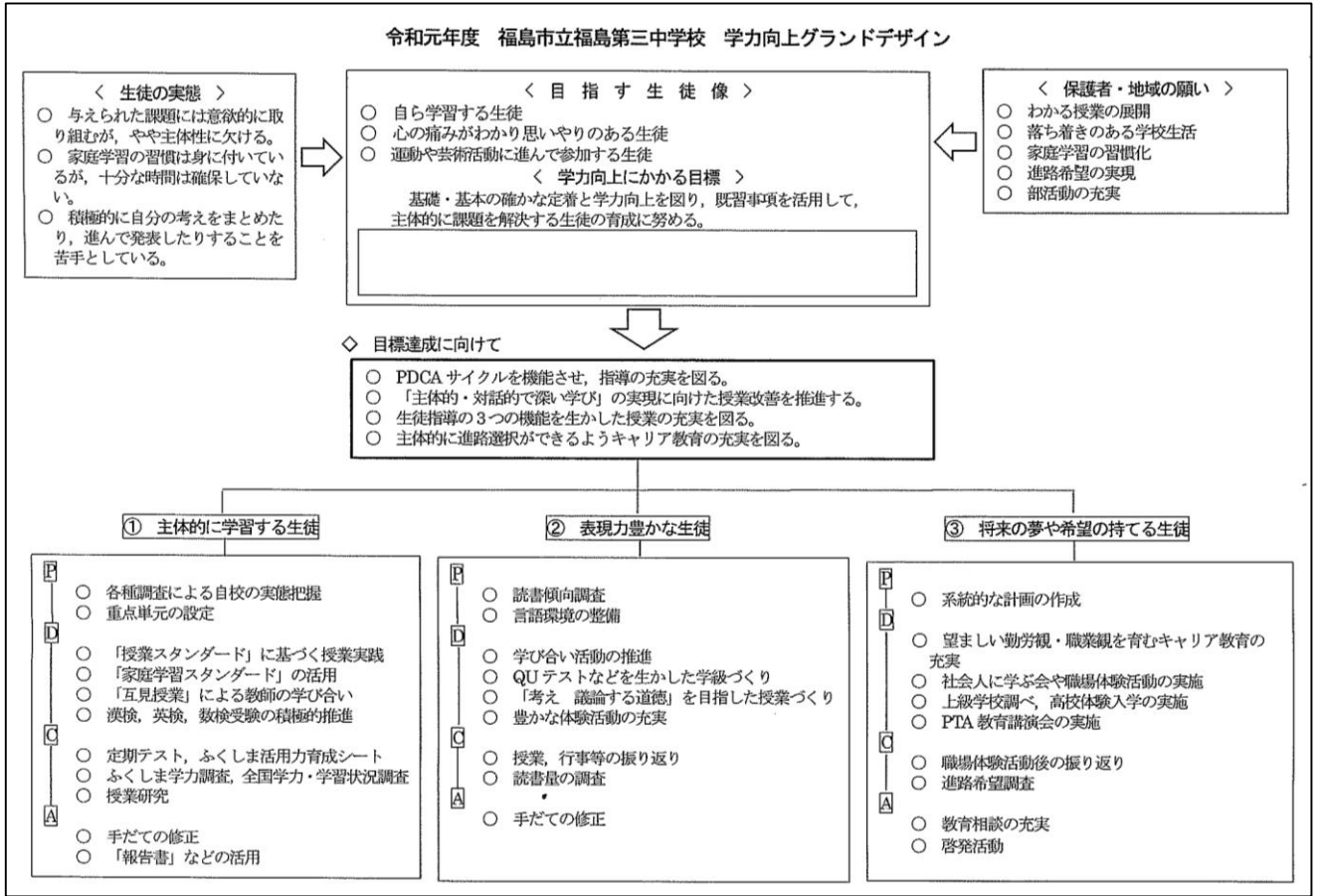


学力向上グランドデザイン



数学科のウォームアップの工夫

y を x の式で表しなさい。 NO1

<p>① <u>y</u> は <u>x</u> に比例していて、次のような表になる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td><u>x</u></td><td>-4</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td><u>y</u></td><td>-8</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-2</td><td>0</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td></tr> </table>	<u>x</u>	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	<u>y</u>	-8	-6	-4	-2	0	2	4	6	8	<p>② <u>y</u> は <u>x</u> に反比例していて、次のような表になる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td><u>x</u></td><td>-4</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td><u>y</u></td><td>3</td><td>4</td><td>6</td><td>12</td><td>x</td><td>-12</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-3</td></tr> </table>	<u>x</u>	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	<u>y</u>	3	4	6	12	x	-12	-6	-4	-3
<u>x</u>	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4																																
<u>y</u>	-8	-6	-4	-2	0	2	4	6	8																																
<u>x</u>	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4																																
<u>y</u>	3	4	6	12	x	-12	-6	-4	-3																																
<p>③ <u>y</u> は <u>x</u> に比例し、<u>x</u> = 7 のとき <u>y</u> = 35 である。</p>	<p>④ <u>y</u> は <u>x</u> に反比例し、<u>x</u> = -6 のとき <u>y</u> = -8 である。</p>																																								
<p>⑤ <u>y</u> は <u>x</u> に比例していて、次のような表になる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td><u>x</u></td><td>-4</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td><u>y</u></td><td>32</td><td>24</td><td>16</td><td>0</td><td></td><td>-16</td><td>-24</td><td>-32</td><td></td></tr> </table>	<u>x</u>	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	<u>y</u>	32	24	16	0		-16	-24	-32		<p>⑥ <u>y</u> は <u>x</u> に反比例していて、次のような表になる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td><u>x</u></td><td>-4</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td><u>y</u></td><td>-7</td><td></td><td>-14</td><td></td><td>x</td><td></td><td>14</td><td></td><td>7</td></tr> </table>	<u>x</u>	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	<u>y</u>	-7		-14		x		14		7
<u>x</u>	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4																																
<u>y</u>	32	24	16	0		-16	-24	-32																																	
<u>x</u>	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4																																
<u>y</u>	-7		-14		x		14		7																																
<p>⑦ 原点を通る直線のグラフが (-2, -6) を通る。</p>	<p>⑧ 双曲線のグラフが (4, -5) を通る。</p>																																								
<p>⑨ <u>y</u> は <u>x</u> に比例し、<u>x</u> = -3 のとき <u>y</u> = 3 である。</p>	<p>⑩ <u>y</u> は <u>x</u> に反比例し、<u>x</u> = -3 のとき <u>y</u> = 3 である。</p>																																								
<p>⑪ 原点を通る直線のグラフが (-9, 3) を通る。</p>	<p>⑫ 双曲線のグラフが (<math>\frac{1}{3}</math>, 6) を通る。</p>																																								

## 図書館教育の充実のための各学年・教科等との連携強化について

### 1 目的

- (1) 読書の質の向上，語彙力，文章力の向上を図るため，「読書デー」をさらに推進させ，生徒の読書活動の活性化を図る。
- (2) 学校図書館と各学年，教科等との連携を強化することにより，生徒の「学びの質」の向上を目指す。

### 2 内容

- (1) 全校一斉読書の実施・・・「読書デー」を利用して，全校生が同じ作品を読む。  
(国語科・図書館教育) (読書の時間，国語科授業，宿題)

※ 全員に印刷して配付 → 感想記入 → 国語科担当に提出

第1期 5月中(連続した5日間)

第2期 10月中(連続した5日間)

第3期 1月中(連続した5日間)

- (2) 伊達中学校読書感想文コンクールの実施(国語科・図書委員会)※ 全校生参加

○ 課題作品・・・全校一斉読書の中から一つ国語科で選定する。  
国語の時間に書く。

○ 字数・・・600字以内(専用の原稿用紙を配付)

○ 審査・・・各学年4点程度選抜(各学年国語科)  
→ 学年・名前を伏せて掲示もしくは配付する。  
→ 全校生・全教員による投票・優秀作品を選ぶ

○ 表彰・・・最優秀 1点 優秀 2点 優良 3点 佳作 6点

※ 課題作品および原稿用紙の準備・・・図書館教育  
一次選抜・・・国語科  
投票準備・集計・表彰・・・図書委員会

第1回・・・6月 第2回・・・11月 第3回・・・2月

- (3) 授業での図書館利用の促進・・・各教科各学年で年間1回以上の利用を目指す。

○ 選定図書について・・・各教科の調べ学習等で必要な図書を調査し，  
本年度購入図書の選定に生かす。

○ 授業での利用について

- ・ 事前に図書館司書に使用の目的や必要な物等を相談する。
- ・ 図書館にない資料は他の図書館より取り寄せることが可能です。
- ・ 作業を伴う場合は，コンテナ等で教室に必要な資料を運ぶことも可能です。



基礎学力向上プラン

本校教育の基本理念
「9年間の小中一貫教育により
地域と共に児童生徒一人一人の夢を叶える学校」

2019年度
西田学園 基礎学力向上プラン

《めざす子ども像》
共に学び、共にきたえ、共に未来を創る
西田の子ども

- 本校の特色
9年間の小中一貫教育の実施
西田地区5つの小学校と1つの中学校が
統合し、前年度開校した
幅広い異年齢集団による活動が可能
義務教育学校のよさを生かし、弾力的な教育
課程の実施が可能
小学校、中学校から集まった教師集団により、
それぞれの校種の文化の違いやよさを共有
することが可能
教科担任制を生かした専門的な学習
地域の願い、教育的な地域の雰囲気や多様
な人材を基盤とした教育活動支援体制

【教育目標】
豊かな知性：自ら考え、自ら表現し、共に学び合う子どもの育成
美しい心：自己理解、他者理解を深めながら、共に高め合う子どもの育成
強い心と体：たくましい心と体で、共にがんばり合う子どもの育成
学び続ける子どもを育む西田の教育
～「たて」「よこ」のつながりを重視した学習を通して～

- 児童生徒の実態
明るく素直で、伸び伸びとしている。みんな
のために思いやり助け合ったりする姿がみられ
るが、さらなる主体性・積極性が望まれる。
決まった課題に対し真剣に最後まで取り組む
ことができる。自ら問題を見つけ、探究的に解
決していく力のさらなる高まりが望まれる。
小学校の統合により、それぞれの地区の学校
から集まった子どもたちが、それぞれの文化の
違いを感じながら生活している。
互いのよさや違いに気づき、学び合い、高め
合うことができるよう、表現力やコミュニケーション
能力を育成することが望まれる。
西田地区の教育課題
少子化に伴う児童数の減少を受け、児童生徒が
より大きな集団の中で、多様な考えに触れ、
認め合い、協力し合い、切磋琢磨し、学力や体
力、コミュニケーション能力等をより一層高め
ていくことが望まれる。



開校間もないことや、県内初の義務教育学校であり先行研究に乏しい状況にあること、また、郡山市内はもとより県内外からの義務教育学校の在り方や研究に対する関心や期待の高さをふまえると、長いスパンを見直し、じっくりと研究を立ち上げていくことが重要であると考え、まずは、本校の子どもたちと見つけ、子どもが学びを喜び合うことができる研究の土壌をたくりける、そして、子どもをよく見つけたらこそ設定することができる手立てを講じ、授業実践の共有化を図る、さらに、共有化された手立てや授業づくりの方針などを、子どもに委ねるに委ねて見つけ直し、整理・改善していく。そうすることで、児童生徒に確かな学力を育成することに資する教育研究を行っていくことができると考え、次のような3年間を見通した計画を作成した。

1年次(2018年度)「みる」
児童生徒や教師の実態と課題、目標とする状態を明らかにし、教師の子ども観・学習観を共有する。そのために、児童生徒一人ひとりの学びを、教師がどれだけいかに細やかに「みえる」ようにしていくことが重要である。そこで、次のような内容で研究を行う。
授業の見方と児童生徒の学びの姿に即した授業研究会のあり方を探ることにより、省察的な実践ができるようになる。「(みえる)グループ」
本来不可視である児童生徒の思考を可視化(可聴化)する工夫をすることにより、児童生徒の学びの事実をみとめることができるようになる。「(みえる)グループ」
児童生徒同士が互いの学び方や見方・考え方のよさに気づくことができる学習活動を工夫することにより、互いに認め合いながら学んでいくことができるようになる。「(みあう)グループ」
上記3つの研究内容に対応する、教科や9年間の学年を超えた研究グループを組織する。
日常的な実践授業と、グループで1つの研究授業を行う。

2年次(2019年度)「つくる」
9年間を通して学び続け、その後も学び続けていくことができる業地を精すための授業づくりを行う。そのために、1年次の研究から明らかになった児童生徒や教師の実態と課題を基に、具体的な共通の手立てを講じ、授業づくりにあたる。そこで、次のような内容で研究を行う。
1年次研究を基に、教科研究グループ、ブロック研究グループにおいて授業の手立てを講じる。
1年次研究から改善を加えた授業の見方や授業研究会のあり方により子どもの姿を見取り子どもに寄り添った授業研究を行う。
児童生徒の学びの事実を基に、授業のあり方や各教科が講じた手立てについて省察を行い、研究の成果と課題を明らかにする。

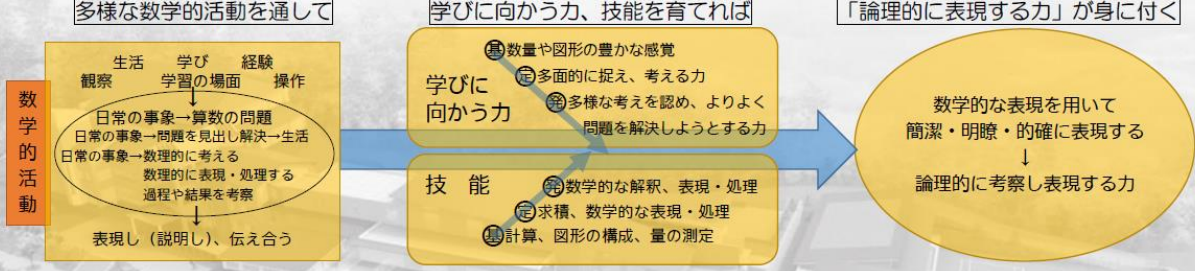
3年次(2020年度)「整理・改善する」
本校の実態や課題をこれまでの研究を通してさらに深く見つめ直し、より目標に迫るものと改善するための授業づくりを行う。そのために、2年次の研究から明らかになった成果と課題、学力向上に対する効果を分析し、これまでに講じてきた授業の手立てを整理・改善していく。そこで、次のような内容で研究を行う。
2年次研究を基に、教科研究グループとブロック研究グループにおいて授業の手立てを整理・改善する。
1年次研究から続く授業の見方や授業研究会のあり方についての研究を継続し、子どもの姿を見取り子どもに寄り添った授業研究を行う。
児童生徒の学びの事実を基に、整理・改善した授業のあり方や手立てについて省察を行い、研究の成果と課題を明らかにする。

共通実践事項「西田学習」
～義務教育学校のメリット、地域環境のメリットを生かした本校の特色ある教育活動～

- 4・3・2の3つのブロックによる発達段階に応じた学習活動の展開
9年間の学習内容の系統性を生かした学習指導
学年ごとのコース学習による確かな学力の向上
5学年からの段階的な教科担任制の導入による専門的な学びの展開
AETの常駐や英語学習の環境整備、英語に親しい時間の充実
タブレット型情報端末の活用による主体的・対話的で深い学びの実現
図書環境の充実と朝の一斉読書の時間の実施による読書習慣の醸成
各教科等の授業や行事における「表現活動」の充実による積極的に表現する児童生徒の育成
異学年交流や全校活動を通じた学習への積極的な取り組みによる人間関係を高める力やコミュニケーション能力の育成
「授業スタンダード」を活用した教師の授業力向上と「家庭学習スタンダード」を活用した児童生徒の学習習慣の確立
問題解答スキルの向上を図るための時間の設定

西田学園9年間の「算数・数学科」学びのビジョン

算数・数学科のめざす子ども像
算数・数学科の学習で培った見方・考え方を働かせ、解決までの見通しを立てたり解決の過程を説明したりすることで、物事を論理的に表現することができる子ども

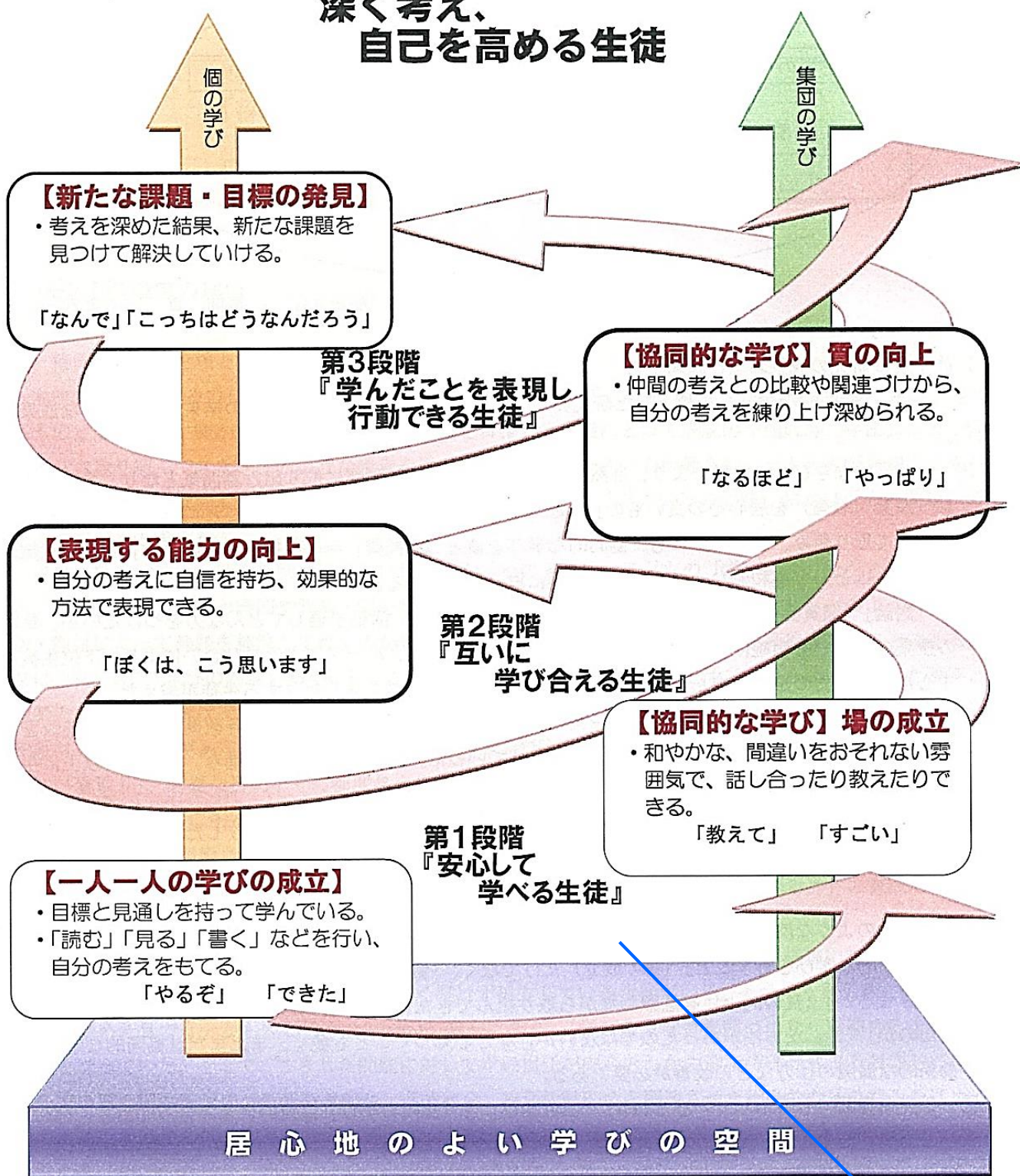


実態と課題
事柄が成り立つ理由を数学的に説明するなどの、論理的な思考力や表現力が乏しい。
一 数学的な表現を用いて、筋道立てて説明し伝え合うこと

Table with 4 columns: 何を学ぶか (What to learn), どのように学ぶか (How to learn), 何ができるようになるのか (What can be achieved), and 学びの基礎期/定着期/発展期 (Learning stages).



## 研究構想図

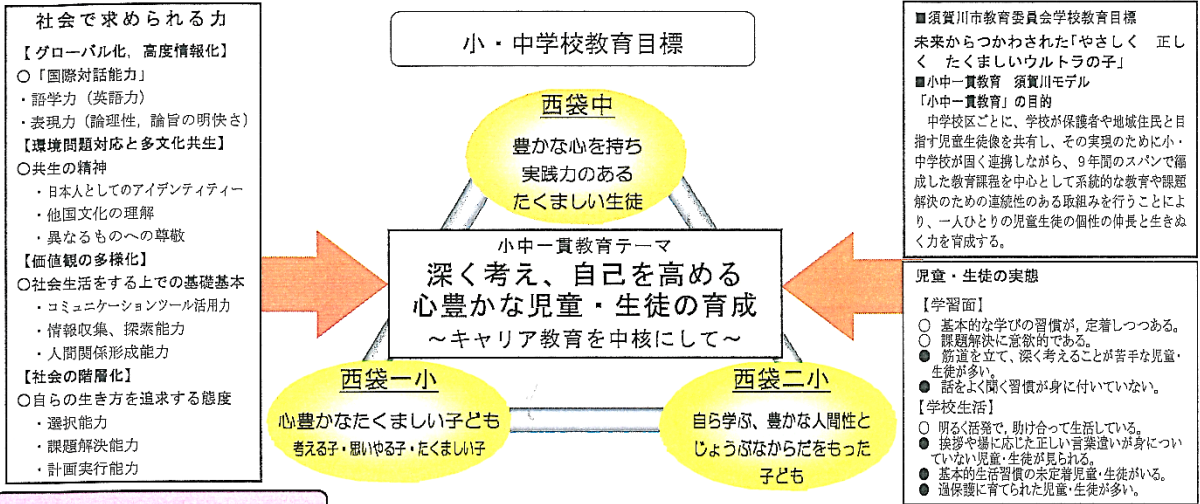
深く考え、  
自己を高める生徒

## 目指す生徒のすがた

「深く考え、自己を高める生徒」を最終的な「目指す生徒のすがた」とし、「安心して学ぶ生徒」を第1段階、「互いに学び合える生徒」を第2段階、「学んだことを表現し、行動できる生徒」を第3段階と設定している。

小中一貫教育（連携型）グランドデザイン

令和元年度 西袋中学校区小中一貫教育（連携型）グランドデザイン



9年間で目指す児童・生徒像

身に付けさせたい資質・能力	西袋第一小学校 西袋第二小学校			西袋中学校		
	1, 2年	3, 4年	5, 6年	1, 2年	3年	
<b>◎人間関係形成能力</b> 多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができることとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力	○他者の思いに気付く力 ○他者を理解する力 ○自分の思いを伝える力 ○他者と協働する力 ○礼儀をわかまえる力	○友だちと仲良くする子ども ○家族や先生に自分の気もちを伝えられる子ども ○大きな声であいさつや返事をする子ども	○友だちと協力して学習や生活に取り組む子ども ○友だちのよいところを認め、励まし合う子ども ○友達に自分の気もちを伝えられる子ども。 ○自分から進んであいさつする子ども	○思いやりの心をもち、相手の気もちを考えた行動する子ども ○縦割り班の活動に楽しんで参加し、役割と責任を果たす子ども ○自分の悩みを相談できる人がいる子ども。 ○集団生活のマナーを守れる子ども。	○他者に配慮しながら積極的に人間関係を築こうとする生徒 ○友だちの気もちや考えを理解する生徒 ○時と場をわきまえて、礼儀正しく接する生徒	○自分から役割や仕事を見つたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動する生徒 ○友だちの相談に応じる生徒 ○時と場に応じた適切な言動をとる生徒
<b>◎自己理解能力</b> 自分が「できること」「意欲を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を深らつ、今後の自分自身の可能性を蓄めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を直し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。	○自分をみつめる力 ○自分のよさに気付く力 ○目標に向かって継続する力 ○自分をコントロールする力	○自分の好きなことやできることが言える子ども ○わがまましないで規則正しい生活をする子ども	○自分のよさを見つけていく子ども ○約束や社会のきまりを守る子ども ○自分でやろうと決めるとは粘り強くやりとげる子ども。	○自分の短所と長所がわかる子ども ○より高い目標をたてて、くじけないで努力することも。	○自分の個性や能力について理解を深める生徒 ○自分と他者の物事に対する感じ方やとらえ方の違いについて理解する生徒 ○自分の好みにかかわらず、やらなければならない学習や仕事に誠意をもって取り組む生徒	○自分の個性や能力を客観的に見ることができる生徒 ○自分が大切な存在だと考える生徒 ○得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組む生徒
<b>能力 課題対応</b> 仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。	○課題をみつめ、解決しようとする力 ○挑戦する力 ○学習を生かして活用する力	○自分のことは自分で行おうとする子ども	○自分の力で課題を解決しようとする子ども	○生活上の課題を見付け、自分の力で解決しようとする子ども。 ○学校生活や友人関係の課題を考え、居心地のよい関係になるよう解決策を考えることも。	○よりよい生活や学習、進路や生き方を目指して自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解する生徒 ○生徒会活動の課題を考え、更に充実した活動になるよう解決策を考える生徒	○夢や希望の実現に向けて課題を自覚し、その解決を目指す生徒 ○学校のリーダーとして学校生活の課題を把握し、全校児童生徒で解決しようとする生徒
<b>キャリア・プランニング能力</b> 「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択し、活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。	○主体的に取り組む力 ○正しく判断する力	○家族の仕事の様子や役割、興味をもつ子ども ○家事の手伝いや係や当番の必要性がわかる子ども	○身近で働く人の苦労や喜びを考えて仕事に興味をもつ子ども ○係や当番の大切さに気付き、進んで取り組む、働くことの楽しさがわかる子ども	○働くことの意味を考え、憧れとする職業や人物をもつ子ども ○学んだり体験したりしたことと生活や職業との関係を考える子ども。 ○委員会活動に責任をもって取り組み、貢献することの大切さを知る子ども	○学ぶことや働くことの意味について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりする生徒 ○職場訪問や調べ学習を通して職業に対する知識を深め、視野を広げる生徒	○夢や希望の実現に向けて課題を自覚し、その解決を目指す生徒 ○学校のリーダーとして学校生活の課題を把握し、全校児童生徒で解決しようとする生徒 ○社会における役割分担の意義と個々の果たすべき責任について理解する生徒 ○望ましい職業観を身につけた生徒

【学力向上部】・【豊かな心部】

西袋中学校区小中一貫教育推進委員会  
・各校校長、教頭、主幹教諭、教務主任、※西袋公民館

【健康・体力部】・【地域連携部】

**【西袋第一小学校・西袋第二小学校】**  
○**道徳教育の充実を図ります。**  
特別の教科 道徳の時間を充実させ、深く考える時間やこれまでの自分やこれからの自分を見つめる時間を作ります。  
○**自分や友達の良さをみつめます。**  
異年齢集団での活動を大切にしたり、学び合いの学習を大切にしたりしながら、自分や友達のよさを見つけ、認め合う活動を行いながら、共感的理解にたつて学級集団をつくります。  
○**校内研修の充実を図ります。**  
外国語活動（西一小）、特別の教科 道徳（西二小）の研究を通して、自分の思いを伝える力を高めます。

**情報交換**  
・授業研究会の積極的相互参加  
・中学校体験Week  
・教員交流研修  
・西袋地区生徒指導委員会

**【西袋中学校】**  
○**道徳教育の充実を図ります。**  
人間としての生き方について自覚を深め、豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図る。  
○**自主的な活動の場、望ましい人間関係を深める時間を多く設定します。**  
教師と生徒、生徒相互の触れ合いの場、生徒の自主性や自立性の育成を目指し、望ましいリーダーとなる生徒を意図的に育成する機会をつくります。  
○**「さらに居心地の良い空間づくり」をします。**  
各教科で小集団学習を取り入れ、授業を通して人間関係を構築するとともに、学習指導、生徒指導の基盤を確立します。



## 「確かな学力」の向上を目指すグランドデザイン

## 平成31年度 中島中学校 「確かな学力」の向上を目指すグランドデザイン

## 【 学校教育目標 】

- ・進んで学習する生徒
- ・心身ともに健やかな生徒
- ・心豊かな生徒

## 中島村学力向上連絡会における実践課題

- 生活・学習習慣の確立
- 学習意欲の向上
- 言語活動の充実
- 幼・小・中の連携

## 【 目指す生徒の姿 】

- (1) 確かな学力を身につけた「学び続ける生徒」
- (2) 豊かな心をもった「思いやりのある生徒」
- (3) 体力と健やかな体の「たくましい生徒」
- (4) 社会性を身につけた「判断力のある生徒」

## 平成30年度の成果

- ・ 全教職員による研究授業・事後研究会の取り組みが、生徒の学習意欲の向上につながった。
- ・ 各種学力テストの結果が上昇した。

## 平成31年度の重点

- ・ 家庭学習の質的向上を目指す。
- ・ 言語活動を基盤とした学び合う授業づくりを目指す。

## 研究主題

## 「意欲的に学び続ける生徒の育成」

平成30年度 研究副主題「基礎的・基本的な知識・技能を身に付け活用できる授業づくり」

平成31年度 研究副主題「思考力・判断力・表現力を高める授業づくり」

平成32年度 研究副主題「自ら学び、共に学び合える授業づくり」

## 〈 達成目標 〉

- 家庭学習の習慣化を徹底する。  
授業に関するアンケート(6月、12月)で家庭学習に関する質問項目で「あまりやっていない」「やっていない」の回答を0%にする。
- 計算コンテスト(1学期)、漢字コンテスト(2学期)、東西スペリングコンテスト(3学期)を全学年で、全員合格を目指す。
- 村学力調査(CRT)  
全学年・全教科前年度偏差値+2以上。
- 漢字検定、英語検定、数学検定  
受検者数の増加および合格者数の増加。

## 〈 評価の手立て 〉

- ・ 授業に関するアンケートを実施  
(6月、12月)
- ・ 学習コンテスト、定期考査の実施
- ・ 全国学力状況調査、福島県学力実態調査、村学力調査(CRT)の実施
- ・ 本校教職員一人一研究授業の実施

## 自己実現

## 確かな学力

## 意欲的に学ぶ授業

参加

参加

生徒

教師

支援

## 【授業づくりの具体例】

- ・ 問題解決的な授業の流れの工夫
- ・ 指導と評価の一体化(ねらいの明確化)
- ・ 構造的な板書計画の作成
- ・ 一単位時間における言語活動の位置づけ
- ・ 一単位時間におけるまとめの時間の確保
- ・ 授業とリンクした家庭学習の与え方  
(ふくしまの「家庭学習スタンダード」の活用)

## 【授業づくりの視点】

～ふくしまの「授業スタンダード」の活用～

- 1 活動的  
読む 観察 計算 調査  
真似 好奇心 など
- 2 協働的  
仲間で支え合う
- 3 表現の共有  
仲間の発言から自分自身の考えや  
在り方を吟味する

## 家庭学習マネジメントシート

マネジメントシートは、励ましや家庭学習に対する助言を書いて生徒へ返している。

『その家庭学習にはどんな効果があるのだろうか?』

5月28日(火) ~ 6月3日(月)

教科	学習内容 (具体的に書こう)	何のために学習するの?
数学	計算を99%やる 大抵は満点 100%を目指す	色んなテスト 100%を目指す
理科	たけなごことかえていく	"
社会	テストの出る場面で、おぼろげに99%やる。	"
実情報告	社会 だけ言っても、理科もやり直し。	

『今度はどんな学習を重点的にしますか?』

『その家庭学習にはどんな効果があるのだろうか?』

7月2日(火) ~ 7月8日(月)

教科	学習内容 (具体的に書こう)	何のために学習するの?
数学	正符の数の 加法 減法 乗法 除法	加法 減法 のやり方 乗法 除法 が混ざってミスしてしまふ のやうに ニガテな部分だから
理科	植物の世界	ニガテな部分だから
社会	歴史のおり	歴史を 知らないから
実情報告	計画的に学習を進めることができた。	

## 自分リサーチシート

『今度はどんな学習を重点的にしますか?』

『その家庭学習にはどんな効果があるのだろうか?』

7月16日(火) ~ 7月19日(月)

教科	学習内容 (具体的に書こう)	何のために学習するの?
英語	単語練習	スペルを 聞き書きの 実力 テスト に向け
数学	できただけ、多くの 問題を解く。	暗に 自問の ミス 減らすため
社会	地理 国 & 国の形	地図を見て答えるの ニガテな部分から
実情報告		

『その家庭学習にはどんな効果があるのだろうか?』

6月18日(火) ~ 6月24日(月)

教科	学習内容 (具体的に書こう)	何のために学習するの?
理科	身近な生物の観察の 花・葉のつくり	単元テスト、期末テストや 理解できていないから。
社会	世界の旗 世界各地の人々の生活	テストでまちがえた所や、 苦手な所を身につけるため
国語	漢字 プレテスト①~③	完璧ににして、50点は とるため。
実情報告	しっかりできました。	

『その家庭学習にはどんな効果があるのだろうか?』

7月9日(火) ~ 7月15日(月)

教科	学習内容 (具体的に書こう)	何のために学習するの?
英語	単語 を喜びのうちにやる!	実力 テスト に向け
数学	正負の数 ~ 全部	読むだけでなく、 書けないといけな ニガテな部分
社会	地理 / 歴史	アジア ・気候帯 ・入国 ・起り
実情報告	英語があまりできなかった。	

7月2日(火) ~ 7月8日(月)

教科	学習内容 (具体的に書こう)	何のために学習するの?
理科	期末の復習 光合成の働き	まちがえたところを 身につけるため。
社会	歴史(忍たら)	歴史をたくさん 知りたいから。
国語	漢検勉強	もう少しで 漢検があるから 勉強したいから!
実情報告	よくできました。OK!	



学校経営・運営ビジョン

令和元年度 喜多方市立会北中学校 学校経営・運営ビジョン



教育目標

- 《知》自ら学ぶ生徒 (自己教育力)
- 《心》共に生きる生徒 (個性と共生)
- 《体》明るく健康な生徒 (健康な心身)

本校は、昭和32年創立の伝統ある学校です。「どの生徒も生き生きと活動する学校」を目指し、学校・保護者・地域が手を携えて教育活動に取り組んでいます。私たちは小規模校の特性を生かし、本校ならではの特色ある教育活動を展開し、ふるさとを愛し、郷土と自分に誇りと自信が持てる生徒の育成を目指します。

重点目標「気づき、考え、実行する生徒の育成」

《知》○ 学習意欲と主体的な学びの向上  
○ 学びの習慣化

- 「わかる・できる」授業の実践(喜教Ⅴ)
  - ・少人数の良さを生かし、個に合わせた学びを大切にします。(密着に応じた課題設定)
  - ・授業の基本を確実に実践します。
  - ・課題設定・主体的な学び・確実なまとめ
  - ・考えをつなぐ発問・板書・机間巡視
- 基礎的な資質・能力の育成(喜教Ⅱ)
  - ・知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を工夫します。(コンピテンシー教育の充実)
- 学ぶ意欲と習慣化(喜教Ⅱ)
  - ・授業と家庭学習をつなぎ、学習の意欲づけと習慣化を図り、知的好奇心や自己学習力を育成する教育を展開します。
- 表現活動の充実
  - ・自信を持って発表・表現できる生徒を目指し、授業をはじめ、学校生活の中に発表と表現の場を位置づけます。

《徳》○ 共生・協働する力  
○ 思いやりの心の育成

- 道徳教育の充実
  - ・考え議論する教科道徳を要とし、学校教育全体を通して豊かな心の育成に努めます。
- コミュニケーション能力の育成(喜教Ⅳ)
  - ・Q-Uの結果をもとに、対人関係の基礎的なスキルを身につけさせ、互いに認め、高め合う集団をつくります。
- 心に響く生徒指導の実践
  - ・場に応じた声かけ、あいさつ・服装・言動を学校生活全体で習慣化し、社会生活の基本を育てます。
- 地域に根ざした体験活動の充実(喜教Ⅰ・Ⅱ)
  - ・ふるさと学習、ボランティア活動、環境体験等の体験的活動によるキャリア形成を通して自尊心、自己肯定感を育みます。

《体》○ 健康と安全への態度の育成と体力・運動能力向上  
○ 心と体の健康と安全

- 健康・安全教育の充実(喜教Ⅳ)
  - ・心身の健康の大切さ・安全な生活を理解し、実践できる生徒を育成します。
  - ・SC や SSW、関係機関と連携した相談体制を強化し、心の健康を充実させます。
- 体力・運動能力の向上
  - ・自己の体力の現状を把握し、体力を向上させるための具体的な活動を考え、進んで体を鍛える生徒を育成します。
- 食育の充実
  - ・教科と給食指導、農の学びを関連づけ、「食」に関する指導の充実を図ります。
- 部活動の充実
  - ・生徒間および顧問教師との信頼関係のもと、事故防止を第一に考え、生徒の主体性を生かした活動を目指します。

めざす会北中の生徒像

《知》
 

- ・高い目標と意欲を持って、主体的に学習に取り組む生徒
- ・自らの考えを自信を持って表現できる生徒

《徳》
 

- ・相手を認め、思いやりを持って行動し、いじめを絶対に許さない生徒
- ・母校と郷土を愛し、集団の一員として役割を果たせる生徒

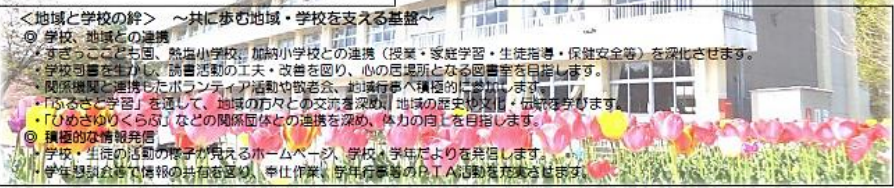
《体》
 

- ・心身の調和がとれ、基本的生活習慣が身についた生徒
- ・健康と食について考え、意欲的に体力の向上に努める生徒

「H31 喜多方市の学校教育」

目標 全ての子ども「生きる力」を育む

- 【重点内容】
- 1 子どもの資質・能力を育成する
    - 1 自己啓発力の育成
    - 2 学力の基となる基礎的な資質・能力の育成
    - 3 勤労観、職業観及び職能の基本的資質・能力の育成
    - 4 共助、協働の態度及びコミュニケーション能力の育成
    - 5 職業の資質・能力の向上
    - 6 安全で楽しく学ぶことができる学校環境の整備
  - 2 喜多方の3つの共通実践
    - ① 授業の質の改善→「教師が話す授業」から「子どもがかわりあっている授業」へ
    - ② 自己肯定感を育む活動の充実
      - Q-Uの活用
      - 自分や友だちの良さを認め合う
      - 地域とともに関わる学校づくりの推進
      - 地域人材の活用による教育活動の推進
      - 学校から地域への「発信」の充実



<地域と学校の絆> ～共に歩む地域・学校を支える基盤～

- ◎ 学校・地域との連携
  - ・「さきどり」活動、鶴嶺小学校、加納小学校との連携(授業・家庭学習・生徒指導・保健安全等)を深化させます。
  - ・学校司書を生かし、読書活動の工夫・改善を図り、心の居場所となる図書室を目指します。
  - ・関係機関と連携したボランティア活動や歌合、地域行事へ積極的に参加します。
  - ・「ふるさと学習」を通して、地域の万々との交流を深め、地域の歴史や魅力・伝統を学びます。
  - ・「ひまわりくらぶ」などの関係団体との連携を深め、体力の向上を目指します。
- ◎ 積極的な情報発信
  - ・学校・生徒の活動の様子が見えるホームページ、学校・学年により発信します。
  - ・学年別活動で得た情報の共有を図り、申し作業、学習指導のP.T.A.活動を充実させます。

学力向上グランドデザイン

令和元年度 喜多方市立会北中学校 学力向上グランドデザイン

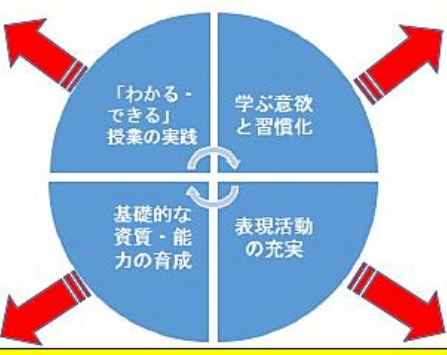
<教育目標>  
 ○自ら学ぶ生徒 ○共に生きる生徒 ○明るく健康な生徒  
 <実践事項>  
 ○学習意欲と主体的な学びの向上 ○学びの習慣化  
 ○自治力の育成 ○思いやりの心の育成 ○健康と安全への態度の育成と体力・運動能力向上 ○心と体の健康と安全

<重点目標>  
**「気づき、考え、実行する生徒の育成」**  
 <目指す生徒像(知)>  
 ・高い目標と意欲を持って、主体的に学習に取り組む生徒  
 ・自らの考えを自信を持って表現できる生徒

<保護者の願い>  
 自ら進んで学習できる生徒  
 <教師の願い>  
 自分力で課題を解決しようとする生徒  
 <生徒の願い>  
 夢をかなえるために努力する生徒

研究主題 「主体的に学び、表現する力を高める指導の工夫(2年次)」  
 副主題 「対話的な学びにより広がった考えを知識として定着させるための振り返りの実践を通して」

- 一人一人に対応した学びを大切に授業の工夫
- 授業の基本の確実な実践
  - ・課題設定・主体的な学び・確実なまとめ
  - ・考えをつなぐ発問・板書・机間巡視
- 日常での教員の学び合い
  - ・互見授業や検証授業などの定期的な実施
  - ・協議会、伝達講習など校内研修の充実
- 知識・技能の確実な定着を図るための支援
  - ・定着確認シートの効果的な活用
  - ・学習コンテストの実施(漢字・計算・スペリング)
- コンピテンシー教育の充実
  - ・思考力・判断力・表現力、活用・応用する力を育成する学習活動の工夫



- 「新たな学び」を促すための学習過程の工夫
  - ・課題→追究→解決→新たな課題→追究
  - ・知的好奇心や問いの力育成
- 授業と家庭学習に連続性を持たせる工夫
  - ・「授業→家庭学習→(朝)の学習→授業...」の学習サイクル
  - ・「家庭学習の手引き」・「ローテーションノート」の継続的な活用

- 自信を持って発表・表現できる生徒の育成
  - ・「望ましい人間関係」を構築し、「自己肯定感」を高める指導や支援の工夫
  - ・Q-Uテストの分析・活用
- 学校生活全般に発表と表現の場面の設定
  - ・各教科における言語活動の充実
  - ・朝会や生徒会行事でのスピーチや発表

<喜多方の3つの共通実践>  
 ①『教師が話す授業』から『子どもがかわりあっている授業』へ  
 ②自己肯定感を育む活動の充実<sup>3</sup>  
 ③地域とともに関わる学校づくりの推進



## 学力向上計画

令和元年度 学力向上計画

南会津町立館岩中学校

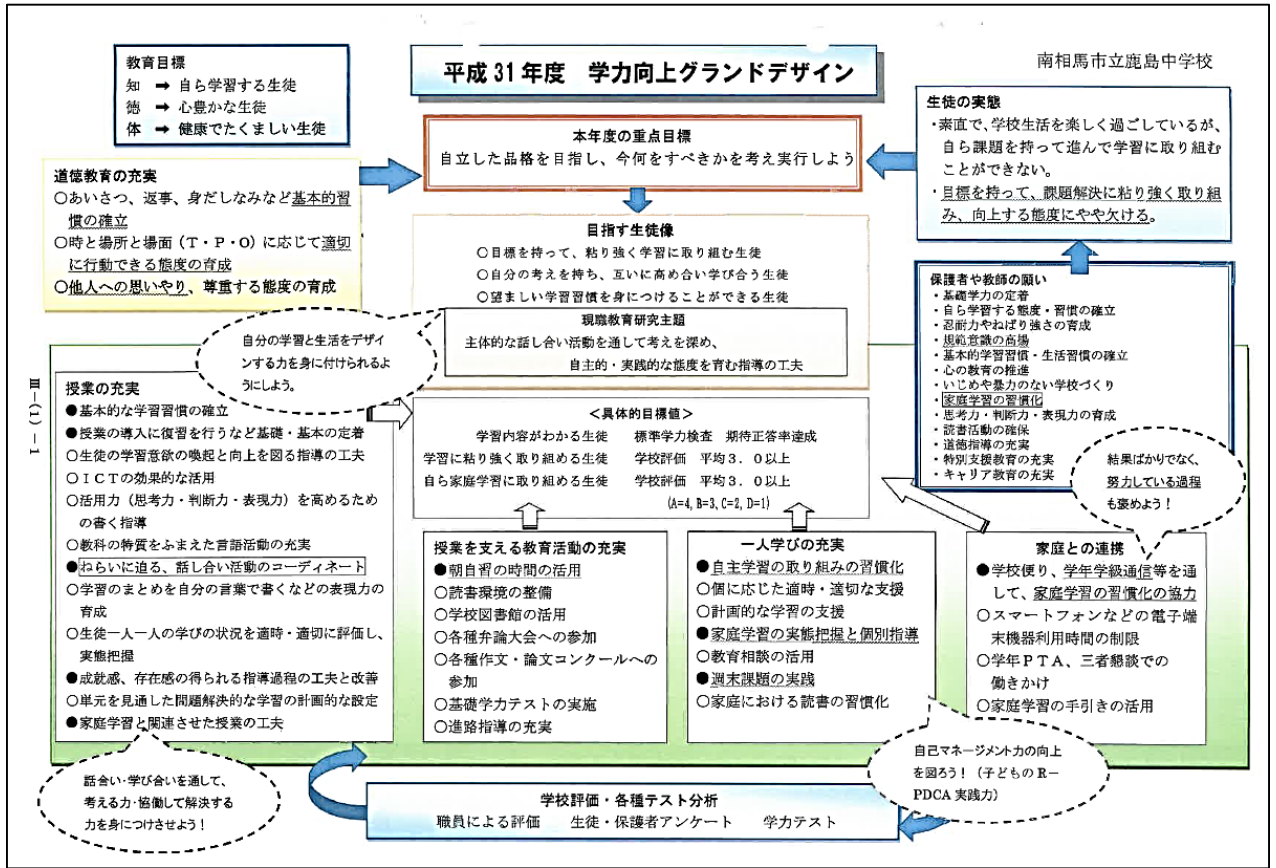
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>指導体制の工夫・改善</b> ・きめ細かな授業 ・補充学習の充実	「課題(めあて)、まとめ」の提示と「振り返り」を意識した授業構成・ICTを活用した授業											
	日常的な授業参観と指導助言											
	学習室の活用(長期休業、定期テスト前、各種検定、入試に向けた補充学習の充実)											
	生徒の実態把握 手だての共通理解											生徒の変容に基づいた 指導体制の評価
<b>教育課程の改善・充実</b> ・授業者セルフチェック ・学力テスト分析 ・各種アンケート	生徒の実態把握 課題の確認											NRTの分析
	授業スタンダード チェックシートの活用											
	全国・学力学習状況調査の分析・考察											
	ふくしま学力テストの分析・考察											
	活用育成シート、定着確認シートの活用											
	学習アンケートの実施											
	教育課程の評価・見直し											
<b>指導力の向上</b> ・校内研修の充実 ・授業技術の向上	生徒の実態把握 年間指導計画の確認											生徒の変容に基づいた 授業分析、評価
	一人一授業の実施、授業研究を通じた実践の積み上げ											
	授業の振り返りと公開授業の準備											
	先進校研究視察と共有											
	幼小中連携 公開授業(7/11)											
	理科コアティ ーチャー授業 研究会(10/17)											
	要請訪問 I 授業研究会 (11/19)											
<b>家庭・地域との連携</b> ・家庭学習の充実 ・学習習慣の確立 ・学校だより HP の活用	保護者会での家庭学習 スタンダードの説明											学校評価を踏まえた 取り組みの見直し
	学校評価の 実施と改善											
	学校評価の 実施と改善											
	家庭学習ノート等の提出・家庭学習内容や方法のアドバイス・励まし											
	家庭学習目標の設定											学習サポートティーチャーによる 学習支援
	家庭学習方法の指導											学習サポートティーチャーによる学習支援
	学習サポートティーチャーによる 学習支援、学習の仕方のアドバイス											
	三者相談での学習 相談と目標の確認											
	二者相談での学習相談と 家庭学習の評価・見直し											

## 数学科オリエンテーション

## 数学 オリエンテーション

1	<p>数学の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基礎・基本をしっかりと身につけよう。</li> <li>② 解決への見通しを持って課題に取り組もう。</li> <li>③ 発展的な問題に進んで取り組み、より確かな学力を身につけよう。</li> </ol>
2	<p>学習の心構え</p> <p>わからないところはわかるまで食い下がり、必ず解決しよう。</p>
3	<p>学習の仕方</p> <p><b>授業での学習</b> 学習の第一段階は学校での学習です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 先生の説明は作業をやめてしっかりと聞く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解できたときははずす、わからないときはわからないと言えるような心構えで。</li> </ul> </li> <li>② 課題に敏感に反応しよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学は考える過程がとても大切です。先生が出した課題に対する発言や思考を積極的にしよう。</li> </ul> </li> <li>③ ノート・学習プリントは工夫して記入しよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいに記入することも大切ですが、先生が話したキーワードや用いた公式をメモしておくことが大切です。</li> </ul> </li> <li>④ 問題練習の時間を大切にしよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のはじめに、計算トレーニングを行います。数学ではイメージのつかない声を出す作業やメモをせずに計算をするという時間です。集中力や計算力を養いましょう。</li> <li>・授業の内容が理解できているかの確認の時間です。わからないところを解決するには先生にどんどん質問することが大切です。</li> </ul> </li> </ol> <p><b>家庭での学習</b> 学力を身につけるには家庭学習が大切です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① その日の学習はその日のうちに復習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学の友を使って、その日のうちに復習しておこう。後になればなるほど、授業の内容が薄れてしまいます。</li> </ul> </li> <li>② わからないところをもう一度確認しよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校でわからなかった問題も、家で落ち着いて考えれば意外と解決できてしまうものです。</li> </ul> </li> <li>③ 進んで問題に取り組み、実力アップを目指そう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実力アップは自分の努力次第です。最低限の学習から、欲張りの学習への転換を図ろう。</li> </ul> </li> </ol> <p><b>学校での解決</b> わからないところは最後まで食い下がろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 数学の先生方を大いに利用しよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休みは学習室を利用して、宿題に取り組んだり、疑問点を解決しよう。また、岩堀先生が授業の応援に来てくださるなど、理解しようと思えば、どこまでも学習することができます。徹底的に先生方を利用しよう。</li> </ul> </li> </ol> <p>○ 授業で用意するもの ・教科書 ・ノート ・数友 ・ファイル ・計算練習帳 ・直定規</p> <p>※必要に応じて 三角定規 コンパス 電卓</p> <p>○ 数学の教科員の仕事 授業開始前 反省用紙を職員室から受け取り、配布しておく。 授業終了後 反省用紙を回収し、職員室までもっていく。</p>

学力向上グランドデザイン



現職研修部による毎月の振り返り

※月初めに目標を立て(○を1つか2つ付けて)その達成度を(その○の中に)4~3で答えください。  
 4:よくできた 3:できている 2:あまりできていない 1:全くできていない

R1.11.11 南相馬市立鹿島中学校 現職研修部

本校の手立ての人数	南相馬市授業改善プラン 9つの課題 <生徒一人一人の主体的な取組む重点的課題>	例	8月	10月	＜現職から＞ 平成31年度(令和元年度)「授業改善の重点」作成に向けて、各教科での全国学力・学習状況調査結果の分析・検討、誠にありがとうございました。ご指導を頂き別紙の通り完成しました。
①生徒一人一人の実態の的確な把握	(生徒一人一人の実態の的確な把握)				11、12月は、①生徒が互いに啓発するような授業の設定や②『三者面談等』では、「生徒の授業の様子やこれまでの家庭学習取り組み」についても、保護者と話し合って頂けると助かります。(家庭とのつながり・連携) 令和元年9月福島県教育庁相双教育事務所から出された「主体的・対話的で深い学び」のプリント、 <b>授業改善の重点ポイント(改訂)</b> 1 「活きる学び」の実現を目指した単元設計 2 教材との出合わせ方を精選した課題設定…コンパクトに 3 考えを広げ深める子ども主体の対話的な学びの充実 4 学んだことを実感できるまとめ・振り返りをもう一度確認して頂けると、私たちの士気も高まり、パワーアップするかと思います。下記の[シート]も随時ご活用ください。 <b>定着確認シート 活用力育成シート</b>
②学習意欲を喚起させる課題設定の工夫	1. 話し合い・学び合いを通じ、生徒相互に啓発するような授業の設定	④			
④目的に応じて資料を読み取り、話したり、書いたりする学習活動の指導	2. 目的に応じて資料を読み取り、話ししたり書いたりする学習活動の指導				
③目的をもった話し合い活動の充実	3. 活発な発言を促すため、発表する場の意図的な設定				
⑥根拠を明確にして書く学習活動の指導	4. 根拠を明確にして書く学習活動の重点指導				
⑥学びを振り返らせる板書とノートの書き方の指導	5. ノート指導の工夫 6. 板書が果たす役割の重視と工夫	②			
⑦適用とまとめの時間の確保	7. 適用とまとめの時間の確保				
③家庭学習の指導・支援	8. 計画的な家庭学習の習慣化				
⑨読書活動の推進	9. 読書活動の推進				
<b>令和元年10月</b> 先生方の実践報告 気づいたことや反省	○ 朝の読書は、新聞や興味を示しやすい本を学級に置いたところ、徐々に自分から好きな本など持参するようになってきた。 ○ 家庭学習への取り組みは、家庭との連携を図り、国語・数学・英語から、その日行う教科をホワイトボードに記入させたところ、見通しが立つようになってきた。 ○ 授業では、教師の説明が多く、話し合いの場を設定することがあまりできなかった。 ○ 学習内容に応じて、資料の読み取り方を練習し、そこから分かることなどを書く活動を取り入れ、少しずつ書けるようになってきた。 ○ 考えを広めよう場を意図的に設定することができた。他の考えをきくことが発見に繋がり、自分の解決の方法に取り入れる姿が見られた。 ○ まとめがあるので、時間を確保し、お互いの考えを説明する場をグループ内で設定した。 ○ 家庭学習のチェックは行えたが、改善に向けての指導が不十分だった。ペアや全体で発表する場合は、設定できたように感じる。 ○ 家庭学習シートを作成し、授業の中で使用する場面を設定した。 ○ 合戦練習中、パートリーダー会議を行うことで、リーダー達に知識や責任感が身に付き、パートのメンバーに堂々と意見を言う様子が見られた。 ▼ 文化祭の準備などで話し合い活動を充実させることはできなかった。発表は、先月よりも機会があったが、全員はできなかった。 ▼ 制作を優先させたため、まとめの時間があまりとれなかった。				







